

平成 25 年第 1 回定例会（3 月）一般質問

(3) 学校教育における「地域」との関わりについて

○ 議員 宮下裕美子 それでは3つ目の質問に入ります。(3)学校教育における「地域」との関わりについてです。昨年来、全国的に「いじめ」や体罰など学校教育を取り巻く問題が社会問題化しています。月形町議会においても昨年9月の定例会一般質問で、金子議員と私が「いじめ」に関する質問を行いました。その際、教育委員長から「学校教育は子ども達を社会へ旅立たせる役割があるのだから、学問だけでなく心身ともに成長させる必要がある。そのためにも学校・地域・家庭が三位一体となった教育をして行きたい。」という答弁がありました。この答弁を私は学校現場に家庭や地域がもっと関わりながら、子ども達を教育していく、つまり「開かれた学校」という言葉が象徴するような取り組みが実践されると期待しました。「開かれた学校」つまり学校という場に地域の人が気軽に集うことで、子ども達を多様な視点で見守り、開放的で自由な雰囲気の中で教育効果も上がるのではないかと思ったからです。しかし平成25年度教育行政執行方針では、学校教育分野に地域との関わりあるいは開かれた学校を感じさせるものが、私は感じ取ることができませんでした。教育分野でうたっている「地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりへの支援」ということで、これ自体はとても重要であり、積極的に取り進められることに異論はないのですが、この事業自体は地域に軸足を置いた地域と子ども達が関係する活動で、学校現場で行われるものではないと感じています。「いじめ」問題のような学校が舞台となる社会問題の解決には、学校を開き学校現場に地域や保護者の目をもっと入れることが重要で、深刻化させずに解決できるのではないかと考えます。このようなことから教育長に伺いたいのは、学校教育における「地域」との関わりをどう醸成していくのか。お伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 質問にお答えいたします。学校教育と地域との関わりについては、現在の取り組みとして学校支援ボランティアに見られる地域の有益な人材を活用した教育活動への支援、読み聞かせ、陶芸教室、部活動の指導などがあります。更には地域の福祉施設訪問、イベント、町文化祭、夏まつりなどの吹奏楽演奏、物故者追悼式での町歌斉唱などが上げられます。また、小学校では学習田を利用して稲作体験をしていますが、その際にも地域の方々を指導者として招き入れということもあります。24年度は食育実践事業として国の指定を受けて、町の農業を営んでいる方を講師として地場産物を知り、郷土の良

さや地域への関心を高める。その地場産物を使った親子料理教室など地産地消を通して地域との関わりを深めております。そのような活動を通して子ども達は感性、感受性が磨かれたり、協力する気持ちの大切さ、奉仕の精神を学ぶ、感謝される気持ちから生まれる存在感や充実感を味わうと共に、郷土を理解したりするなど、多くのことを学んでいます。そのような活動を連続させていくことが大切であると思っております。また質問にありましたいつでも月形の学校は授業も見せますし、また授業公開日と銘打ったときもあり、いつでも相談、ご意見を受け入れて、来ている方の話を聞いている状況もあります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今、教育長が言われた様々な事業は、昔から色々なかたちで取り組まれていることで、十分、理解しています。これらのことが子ども達の情操教育に役だっているということも異論はございません。しかし、学校がいつでも授業を見せる、受け入れるという状況になっているとは言っても、実際に住民が学校に行っているのか。行けるのか。保護者ではなくて一般の地域の方々がどれくらい行けているのかということが非常に疑問で、本当に学校の敷居が低く開かれている状況になっているのか。先ほど言われた事業は基本的に学校側が企画してそこに地域の方々が参加するかたちがメインで、私のイメージするのは「開かれた学校」と言って昔みんなが目指していたのは、地域と学校が共に集会所のように学校に集まって参加する。普段の生活の中で学校で子ども達の様子を見ながら関わり合うことで、できているものと思っています。今年度小学校が一つ統廃合になって月形小学校一つになりましたが、今まで札比内小学校は地域全体が保護者PTAという位置付けで、様々な行事に地域全体の方を招待して自分の子どもがいる、いないに拘わらず、多くの皆さんの姿を学校内で見ることがありました。普段の行事でも皆さん関わりし、逆に言えばもっとPTAなどの集まりがあればまた、そちらにも参加する方々もたくさんある。そういうかたちで学校と地域の距離が近い所が統合になってなくなってしまった。区域が広がったことで総体的に見れば学校が地域から離れていくような印象を受けます。ですから今までと同じ取り組みをしても学校側は変わらないけれど地域にとって学校が遠い存在になっていくと思いますが「開かれた学校」の概念が、自由なかたちで学校に集いながら地域と共にあるというかたちで実態を教育長はどのように考えているのか。あるいはそのことに対して今後、取り組む、有用性をどのように感じるか。地域と学校がもう少し結び付くことに対して、どんな考えを持っているのか、お伺いします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 学校の敷居が高い。距離が遠いということを言われましたが、学校側ではそのようなことがないようにということで働きかけていますし、いつでも、誰でも来

たら話を聞くようにということで、逆に一時期不審者等の出没があったとき、学校内で傷害事件が起こったとき、今もそうですが、必ず学校に施錠している状況です。ボタンを押してモニターカメラで確認ということがあって、それで身分を確認しないといくらアポを取っても入れない状況ですが、月形町も施錠はしていますが、インターホンで話していただければ誰でも受け入れますし、決して拒んでいません。また、保護者やPTAや地域の方から茶話会のように利用したいということもあって、それも会場を提供しているということも聞いております。もう一つ、先ほど同じような活動をしていても言われましたが、同じような活動が残っているということは、それは不易な価値があるから同じような活動が残っていると思っています。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 最後の不易な価値があるから残っているということは、問題ないと思いますので進めていただきたいし、そのことに異論はありません。ただこれらのことは、基本的に学校側が企画して地域に下ろしている事業ばかりなので、そうではなく地域側がもっと働きかけて学校と一緒に茶話会として会場を提供しているなら、実例がたくさんあるなら「開かれた学校」になっている。これが保護者などの集まりや別の地域が本当にそこを会場として使っているのかということは、よく分かりませんが、本当に学校に敷居がなく学校に自由な感覚で入れているのであれば、問題ないのでぜひ進めていただきたいと思います。そこで一つ提案させていただきたいのですが、この事例は必ずしもそのまま月形町に応用できるものではないですが、ただ、考え方として学校を開くという手法の一つとしてこのようなことがある。学校を開くと言うと何でもかんでも学校側が努力して先生方が今までより教頭先生や学校が開けるように会場を集会所として使ってくださいというように学校の先生に負担があるから難しいということになりがちですが、学校を開くための手法として給食を使っている事例があります。これは置戸町の今は食のアドバイザーとして活動している佐々木十美さんの事例ですが、給食センターで山菜を出すということで、それで食材を採るのは山菜は自分たちで採ってこなければならぬので、それこそ地域の方や山菜採りが好きな人をお願いして、採りにいく。その後、その日のうちに下処理しなければならぬから、それはふれあい大学や老人クラブの方々にそういうことが好きな方々がいるから声かけしてむいてもらう。最終的に食材を保存して年間を通して給食に出すときに手伝ってくれた方々にお礼として給食に招待して子ども達と交流を持つということです。今までならお孫さんもいなく学校に入ることすらない皆さん方を、学校内に招き入れる仕組みとしてこのようなことをやっているということを知りました。これは学校の先生方に負担は掛からないし、給食という日常でプラスアルファのところで、どちらか

と言え給食センターには少し手間が掛かるかもしれませんが、周りのサポートで学校を開くようにできる事例であると考えます。予算も色々、お聞きしましたが、置戸町の場合、うちと給食費がほとんど変わらない。経費も変わっていない。人件費も変わらない状況で、これが十分、できていたわけです。ちょっとした工夫によって地域の方が学校の場に入ってくる取り組みもできるのです。先ほど教育長が言った色々な個々の事業は、今まで通り有益だから続けていると思うので、それは勿論続けていただきたいですが、地域の方々が今まで馴染みがなかった方も学校に入ることにより今まで以上に地域の多様な視点があっで見つめることで、「いじめ」や体罰、新しいかたちの教育問題を解決できると思います、そのことについて教育長のお考えをお伺いします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 ちょっと質問の主旨が分からないのですが、給食にウェットを置いて述べた方がいいのか。外部人材、外部講師で地域のお年寄りや昔話ということで述べた方がいいのか。給食がたまたま媒体でということであると思いますが、それをはっきり教えていただきたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 自由に答えていただいて結構です。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 それでは自由に答えさせていただきます。はじめに学校給食については、ご承知であると思いますが、米をはじめ野菜全般、納豆、豆腐、トマトジュースなど可能な限り地場産物を使っております。購入する業者は地元JAや地元で農業を営んでいる方々が組織しているグループから購入しています。つまり、これは特色を生かした給食であると思っています。これらの内容は給食だよりに載せていますし、その日に使った食材の生産者の顔の見える食材を使っている。地元で採れるもののほとんどを給食の食材に活用させていただいております。置戸町の場合もそうであると思いますが、安定供給や衛生基準のこともありますから、もし地元で協力してくれる方がいましたら、それは生産者登録をもらってということで、現実に個人で登録されている方もいますので、登録してもらい、安定供給衛生基準ということで、考えていきたいと思います。それと外部人材については、地元のお年寄り、地元で歴史を語る方など活用例は昨年、一昨年とありますので、これは少し意識して検討して行きたいと考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 私が言った主旨が全然、伝わっていなかったのが残念ですが、給食で地元食材を使っていることは分かっているし、顔の見える食材を使っていることはいい

と思います。それをきっかけに地元食材を使っている人を、給食の場に招いて給食と一緒に食べながら学校を見てもらう。学校という場に地域の方々を引き込みながら、もう少し学校が開かれるようにならないのか。食材が誰のものを使っているのかということは給食だよりで見えていたのですが、だからと言ってつながっていないと思います。文書では書いてありますが、地域とのつながりを作るために食材を提供する人が、時々、食材の説明に来る方がいて一緒に給食を食べた話題が載っていますが、それを積極的にされたらどうか。今、そういうのを使っているではなく、それを一歩、進めて学校の現場に地域の方々を呼び込むということで、先ほどの事例を述べさせていただきました。ですから外部講師の方々に来ていただくことはいいことであると思いますが、単発で外部講師ということにすると、一人、二人しか招聘できませんが、先ほど言った給食のふきの筋取りなどで関われば、たくさんの方々が関わり、最終的に皆さん、学校にお越し下さいといえ、何人も来てみんなで見てくれるかもしれない。今、最初に読み聞かせ、部活動の指導者、福祉施設訪問云々ということも、特定の誰かということに関わっていますが、地域全体として学校と関係を持つという意味で、そういう手立てを作っていただけたらという提案だったのですが、いかがでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 宮下議員、食材提供者を探して、それを調理する人も探してということですか。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 違います。今の給食の中で食材を提供した方でもいいのですが、給食を食べている現場で子ども達と一緒に交流するということです。

○ 議長 笹木 英二 早く言うと、人集めですね。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 もっと人を学校の中に入れるということですか。

○ 議長 笹木 英二 それは今すぐどうこうできるものではないと思いますが、今後の課題として考えてもらうしかないと思います。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 論議を繰り返しても平行線であると思いますが、給食の搬入者に学校給食で試食会をしたからそれが開かれているというだけではないと思っており、色々な方が来て試食会をやっていただきたいと思っています。昨年度小学校では24年度食育実践事業で地元農家の方々に来ていただき、生産者の方々に料理教室をやる。集会はやっていきますので、その部分については、今後、検討して行きたいと考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 色々な事例を言ったので分かりにくくなってきたかと思いますが、やはり3,800人しかいない町尚かつ少子化で小学校が一つしかない町で115人しかいない現実があります。子どもを持つ家庭が一人、二人という中で、子どもの教育について非常に熱心になって関心の高まりを感じています。そんな中で今「いじめ」の問題、体罰の問題など様々なことが、月形で起こっていなくても全国的にそのような流れになっていることは、心配の種が増えていることであると思います。それを十分に改善するためには「開かれた学校」が一つのキーワードになると思います。都市部のように不審者が多い、あまり顔見知りではない方が入ってくる可能性がある場合なら別ですが、月形町の場合はセキュリティ部分でもかなり高度な部分がキープされていますから、色々な工夫の仕方によってより一層「開かれた学校」が実現できると思います。少し残念なのは、色々な方から聞いた話では親子レクの時間がなくなり、保護者が学校に顔を見せる機会が減ったこと。私たち議員が入学式や卒業式に呼ばれることがなくなり、行く機会も少なくなりました。それから公開授業は様々行われていますが、それらについても月小だより、月中だよりで少し掲示されていますが、もしそのようなものが開かれるのであれば、IP告知などを利用して「どうぞ、皆さん、お越し下さい。」と呼び込むこともできると思います。様々なかたちで地域と学校現場がもう少し近づく。今まで札比内小学校が築き上げてきた地域との関係性を統合したからなくすのではなく、月小、月中の中で新たに構築して、みんなで地域全体が教育に関わるという姿が理想であると考えたわけですが、最後にそのところだけ答弁いただければと思います。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 今、「いじめ」や不審者情報ということで学校だよりは全戸配付になっていますので、その中で数値等も載せていますし、各種行事については拒んでいませんのでぜひお越しいただきたいと思います。IP告知端末については、工夫できるところは検討して行きたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 了解しました。